

1 利用状況と今後の運行にかかる検討について

(1) 利用状況

令和7年4月の運行開始以降、2か月間の利用者数は1日平均約6.9人と低調な状況で推移している。

令和7年度は試験運行とし、利用状況を踏まえて令和8年度以降の在り方を検討することとしている

【4・5月の利用者数等】

利用実績	利用者数	運行日数	1日平均利用者数
4月	152人	21日	約7.2人
5月	132人	20日	約6.6人
合計	284人	41日	約6.9人

※小数点2位以下四捨五入

当初の利用見込みに達していない

【シャトルバスの利用見込(R6.10.30市交通協議会資料より抜粋)】

③市民の路線バス利用者見込み

路線バス利用者見込み

1日あたり7.5人※1+α※2

※1：7.5人の算出根拠

常滑市民の半田病院患者実績は約1,000人/月(R5)

路線バス利用割合は約15%(半田病院実施アンケート)

→路線バス利用者見込み：1,000人÷20日×0.15=7.5人/日

※2：「+α」は、今後、両病院間での診療機能の分化も考えられることから、新たな移動手段の整備により利用者が一定数増加すると推測するもの。なお、このことを含めて、利用動向は未知数な部分が多い。

【シャトルバスの概要(R7.3.4市交通協議会資料より抜粋)】

新半田病院への通院用シャトルバスの試験運行について

資料4

【趣旨】

市民が令和7年4月1日から開院する知多半島総合医療センター(新半田病院)へ通院やお見舞い等で移動する手段の一つとして、知多半島りんくう病院(現常滑市民病院)と知多半島総合医療センターの間を結ぶシャトルバスを試験運行します。

【試験運行期間】

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの間
(土日、祝日及び12月29日から1月3日を除く)

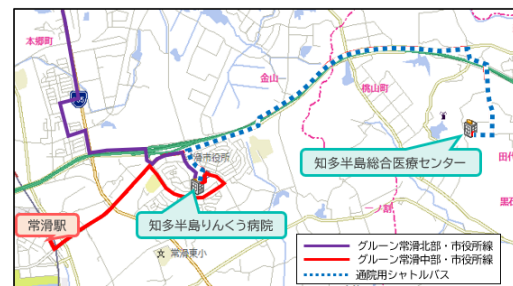


【運行区間】

知多半島りんくう病院
(現 常滑市民病院)



知多半島総合医療センター
(新半田病院)



【使用車両】

ハイエース(9人乗り)

【運行ダイヤ】

(参考：※はグリーン常滑中部・市役所線のバス停「常滑市役所・市民病院」の到着・出発時間)

知多半島総合医療センター行	1便	3便	5便	7便	9便	11便	乗換
(中部・市役所線到着時間※)	(8:10)	(9:10)	(10:20)	(11:20)	(12:20)	(13:20)	
知多半島りんくう病院	8:15	9:15	10:35	11:35	12:35	13:30	
知多半島総合医療センター	8:25	9:25	10:45	11:45	12:45	13:40	

知多半島りんくう病院行	2便	4便	6便	8便	10便	12便	乗換
知多半島総合医療センター	8:35	9:35	11:05	12:05	13:05	13:45	
知多半島りんくう病院	8:45	9:45	11:15	12:15	13:15	13:55	
(中部・市役所線出発時間※)	(9:00)	(10:00)	(11:30)	(12:30)	(13:30)	(14:00)	

※以降の文中では、知多半島総合医療センターは「総合医療センター」、知多半島りんくう病院は「りんくう病院」と表示

1 利用状況と今後の運行にかかる検討について

【運行ダイヤと各便平均利用者数】

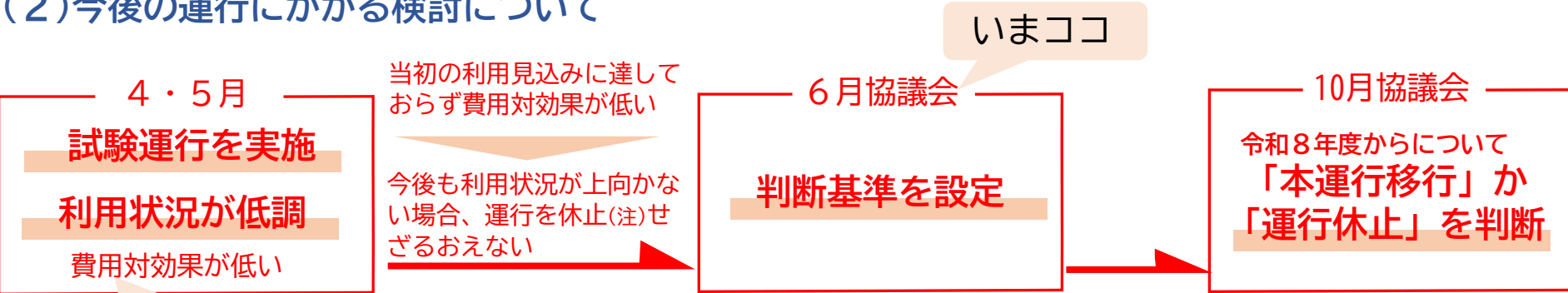
総合医療センター行	1 便	3 便	5便	7便	9便	11便
りんくう病院	8:15	9:15	10:35	11:35	12 : 35	13 : 30
総合医療センター	8:25	9:25	10:45	11:45	12 : 45	13 : 40
4月平均利用者数	0.5人	1.3人	1.0人	0.1人	0.2人	0.3人
5月平均利用者数	0.5人	1.7人	0.4人	0.4人	0.2人	0.2人

りんくう病院行	2 便	4 便	6便	8便	10便	12便
総合医療センター	8:35	9:35	11:05	12:05	13 : 05	13 : 45
りんくう病院	8:45	9:45	11:15	12:15	13 : 15	13 : 55
4月平均利用者数	0.1人	0.5人	1.3人	0.8人	0.5人	0.4人
5月平均利用者数	0.1人	0.3人	1.3人	0.9人	0.8人	0.2人

赤点線囲みの便は比較的多く利用されているが、多くても1.7人である。

※小数点2位以下四捨五入

(2)今後の運行にかかる検討について



タクシー事業者への運行委託費は約965万円/年⇒4・5月の1人当たりの運行経費は約5,660円(965万円÷12か月×2か月÷284人)

(注)今後、両病院間での診療機能移転が行われる場合があり、その影響が未知数であるため「休止」としておき、運行を再開等するかは、両病院間での診療機能移転の状況とその影響を踏まえて検討することが考えられる。

2 今後の運行にかかる判断基準等について

(1) 判断基準について

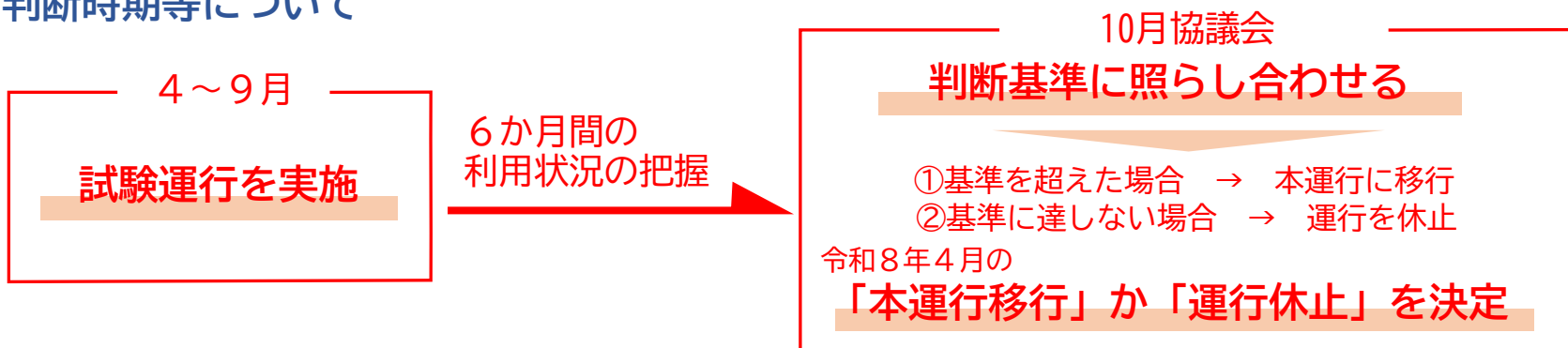
「本運行移行」又は「運行休止」について以下の基準で判断することとする。

○ 1 便当たりの平均乗車率の目標値を定めて算出する判断基準(案)

シャトルバス乗車定員	目標値： 1 便当たりの平均乗車率	判断基準
9 人 (A) 	25% (B) 令和 6 年 グリーン利用乗車率 常滑北部・市役所線：約24.1%、常滑中部・市役所線：約32.8%、とこなめ周遊線線：約53.3%、常滑南部・上野間線：約45.5%、常滑南部・武豊線：約41.7%  28 人 乗り 乗車率25% = 7 人	2.25 人/便 (A) × (B) 27 人/日 (12 便)

・ 1 便当たりの平均乗車率（1 便当たりの平均利用者数 ÷ 乗車定員）の目標値を定めて判断基準を算出。（常滑北部・市役所線の数値と比較して目標値を25%とした）

(2) 判断時期等について



2 今後の運行にかかる判断基準等について

(3) 今後の想定スケジュール

時 期	検討等の内容	検討会等
R7. 6	判断基準について協議	・ 市交通協議会
R7. 7	病院における周知活動の継続	・ 総合医療センター ・ りんくう病院 ・ 市HP等
R7.10	常滑市通院用シャトルバスの令和8年度における「本運行移行」又は「運行休止」について協議(付議※市議会協議会)	・ 市交通協議会 (市議会協議会)
R7. 11～	利用者への周知（本運行移行又は運行休止）	・ 総合医療センター ・ りんくう病院 ・ 市HP等
R8. 4	本運行移行又は運行休止	

4 参考（利用者アンケート結果）

利用目的

病院の行きか帰りか 無回答, 1人

自宅に帰るため,
94人(約33%)

病院に行くため,
189人(約67%)

「病院に行くため(約67%)」の約1/2であり、
現行ダイヤでは「病院から帰る」
需要の取りこぼしがあると考えられる

利用者の居住地

居住地 その他, 4人

武豊町, 18人

知多市, 6人

半田市, 28人(約10%)

りんくう病院で受診する半田市民が
若干数いると考えられる

常滑市, 228人(約80%)

総合医療センターで
受診する常滑市民が
一定程度いると考えられる

利用者の年齢

年齢

小学生以下, 2人

中高生, 2人

75歳以上,
115人

19~64歳,
100人

65~74歳,
65人

65歳以上の利用者が
全体の約63%であり、
高齢者の利用(病院の
受診)割合が高い